

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立小野小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 3クラス 77名 教員 3名 合計 80名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (総合的な学習の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	道徳や社会で学習した福祉の視点から、障害者スポーツの選手を招いた講演や競技体験を通して、パラリンピックについて知るとともに、障害のある人に対する理解、また、共生していくことについての理解を深めることができるようにする。
5 取組内容	◆事前学習 ①総合的な学習の時間「共に生きる町小野①」という単元において、障害のある方や高齢者の方についての学習を進めてきた。 ・介護を必要とする人たちと介護に携わる仕事をしている人たちの生活 ・福祉施設「長楽園」について詳しく調べ、見学しよう。 ・老人介護施設の方の話 ・課題解決のための情報収集、体験 (インターネットや本で調べる・体験等) ②道徳「夢を持ち続けて」 ・下半身不随の松江美季さんが長野五輪スレッジレースで金メダルを獲得した話 ③総合的な学習の時間「共に生きる町小野②」(障害者について理解する)において、障害のある方の生活について ・パラリンピックって何だろう。 ・車いすバスケットボールの選手とふれあう。 ・聴覚に障害のある松永さんの生活についてのお話を聞く。 ・障害者や高齢者と共生するために

	<p>◆当日の学習</p> <p>(1) はじめの挨拶, 講師と選手の紹介</p> <p>(2) 講師の方からのお話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすの仕組みや操作方法 ・車いすバスケットボールについて <p>(3) 車いす体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすに人を乗せて押したり, 車いすに乗ってみたり <p>する。(方向変換, Uターン, リレーなど)</p> <p>(4) 車いすパスゲーム体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手のデモンストレーション ・車いすでのパス, キャッチ, シュート, ゲーム <p>(5) 選手の方からのお話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボール選手になるきっかけ ・日常生活と選手としての生活 ・子ども達に伝えたいこと ・質疑応答 <p>(6) 終わりの言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の感想発表 <p>◆事後学習</p> <p>引き続き総合的な学習の時間で, これまでの学習と関連付けて, 障害のある方と共に生きるために, 自分たちができることはどんなことか, 自分たちの町をよりよくするためには, どんな工夫や努力が必要かについて話し合う。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○障害者スポーツ(車いすバスケットボール)について体験することで, 楽しさを知ることができた。</p> <p>○障害のある方から実生活や社会生活をどのように考えて送っているのかといった話を直接聞かせていただくことにより, 共生社会の大切さについて考えることができた。</p> <p>○スポーツの価値について考えることができた。</p> <p>○障害の有無に関わらず, 全ての人に対してやさしい町・社会づくりについて考えることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○パスゲーム用のゴール(低く広いもの)を使って, 多くの児童が運動の楽しさにふれられるようにした。</p> <p>○質疑応答の時間を設けることで, 選手の生活に密着した困りや喜びの生の声を聞くことができた。</p> <p>○道徳の学習を事前にするすることで, 障害のある方もそれを乗り越えて感動を与えてくれるスポーツ, パラリンピックのすばらしさを学んだうえで体験することで, 実感を伴う体験となった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○車いすの台数にどうしても限界があるので, 順番を工夫して多くの子が少しでも長い時間体験できるように出来たらよかったと思う。</p>



9来年度以降の 実施予定	○正直, 車いすの手配が大変だった。運搬積み込みへの立ち合い等, 運送会社に任せ切りにできなかったのは残念。しかしながら, 子 ども達は大満足の内容で, 学習効果がはっきりと見られた。
-----------------	--